

ハローキャリアワーク通信

令和7年12月吉日
教育総合センター
事業推進担当課

11月29日（土）に、フレッシュチーズスタジオとの連携によるハローキャリアワークが行われました。「フレッシュチーズスタジオ」は、(株)明治の新規事業創出プログラムから生まれたチーズのお店です。今回はテーマを「“できたてチーズ”のお店を地域に愛されるお店にしよう！」として募集したところ、147名もの大勢の応募がありました。午前午後の2部制で、各15名計30名が抽選で選ばれ、当日は欠席者もなく全員が意欲的に活動しました。



参加者は、深沢にあるフレッシュチーズスタジオの工房に集合しました。スタッフの藤本さん、小森さんからお店の説明やフレッシュチーズの商品の紹介などがありました。そして、おしゃれでコンパクトなお店の前で、記念の集合写真を撮りました。



その後、ワークを行うためにお店から徒歩5分ほどの距離にある、深沢区民センターの料理講習室に移動しました。4つのテーブルに分かれて着席したあと、北海道十勝にある北広牧場の動画を視聴しました。藤本さんの説明を聞きながら、雄大な牧場の風景の中で放牧された牛たちが、ゆったりと過ごしているのどかな様子を見ました。牧場主さんのインタビュー中に、人懐こい牛さんがカメラの前を通り過ぎる場面が微笑ましかったです。搾乳の様子も映し出され、新鮮なミルクを原料にしていることが理解できました。



次に、藤本さんからチーズ作りの手順を聞き、全員が前方に集まって、小森さんのチーズ作りの実演を見ました。カードと呼ばれる材料を電子レンジで温め、柔らかくなつたものを手で丸めていきます。指の輪で小さく丸めて水に入れて冷やすと出来上がりです。ま



た、長く伸ばして何度も重ねていけば、裂けるチーズになります。プロの巧みな技は、とても簡単そうに見えますが、果たして子どもたちはチーズを上手に作ることができたでしょうか？





いざ実際に作り始めると、子どもたちからは「感触が楽しい」「カードが固まるのがすごく早かったので大変だった」「ちぎるのは難しかったけど楽しかった」「固ると伸びなくなるのが大変だった」「ついねいに丸い形にするのをがんばった」「思ったよりも簡単だった」といった声が聞かれました。みんな集中してチーズ作りに取り組みました。



そして、自分でがんばって作ったチーズを、その場で試食しました。塩やオリーブオイル、はちみつなどで味変をしながら、みんなおいしそうに食べました。

「おいしい」「すごくいい味」など、満足そうな笑顔があふれていきました。



試食の後は、まとめの作業に入ります。ここからは、株式会社ケシオンの岡本さんにリードしていただきます。株式会社ケシオンは、世田谷区教育委員会とフレッシュユースタジオの間に入っていました。子どもたちは手際よくテーブルの上を片付けて、筆記用具や iPad を用意して岡本さんのお話を聞きました。

地域に愛されるお店にするためには、そのよさ、すばらしさを発信する必要があります。方法として、「4コママンガ」と「チチ新聞」が示され、そのどちらかを子どもたちが選択します。さらに、手書きで紙に書いて仕上げるか、iPad を使ってデジタルで作るかを選びます。子どもたちは何を伝えたいか、じっくりと構想を練った後、それぞれの方法で作業に入りました。学校での学習で、ほとんど全員が新聞づくりは経験しています。絵を描くことが得意な子は、マンガの方を選んだようです。子ども



たちが選んだのは、4コママンガ…17名（手書き8名：デジタル9名）、チチ新聞…12名（手書き7名：デジタル5名）となり、1名はiPadを使って動画で仕上げました。時間いっぱいまでみんな集中して取り組み、すばらしい作品がたくさん出来上りました。残念ながら完成に至らなかった子どもたちもいましたが、だれもがとてもよくがんばりました。



出来上がった作品のうち、何人かの子が前に出て発表しました。短い時間でしたがとてもよくまとめられていて、みんなから大きな拍手をもらいました。全員の作品はデータ化して、フレッシュチーズスタジオの店舗などの活用を、今後検討していきます。



最後に振り返りカードの記入をして、今日がんばったことや感じたことなどを各自、確かめました。そして、子どもたちは帰り際にスタッフの村田さんから、フレッシュチーズのおみやげを手渡していただき、満面の笑みで帰路につきました。